

〔第31回学術集会 シンポジウム1〕

米国ナースプラクティショナー発展の背景と プライマリケアにおける Family Nurse Practitionerの診療の実際

米ハワイ州 聖ルカクリニック-アラモアナ

西村 ちえ

米国におけるナースプラクティショナー（以下NP）発展には、1950～70年代の人口増加、専門診療科医師の増加によるプライマリ医師の不足、公的医療保険の拡充などの社会的な背景が大きく影響した。80年代には、低価の診療報酬で質の高い診療内容を提供するNPの有用性について多くのエビデンスが集められ、医療サービスニーズの急騰に伴う医療費削減に向けての政策として注目を浴びた。国政としてNP育成教育機関の増設が進み、2020年には約400の大学院でNPプログラムが設けられ、現在、全米では約385,000人のNPが活躍している。

NPになるには、まずは正看護師の資格を取り、大学院で約2～4年間より高度で専門的な医学・看護の知識と臨床スキルを身につけたのち、家庭医療・産婦人科・小児科・老年・精神科・救命救急など専門分野の資格試験を受けた後に、勤務する州のライセンスと処方権を取得する。病歴聴取、診察、必要に応じて血液検査や画像診断の指示、検査実施、結果判断、結果説明、診断、治療、薬剤処方、専門科への紹介など、全米の多くの州で医師のスー

パーバイズなく医事診療行為が許されており、プライマリケア、救急外来、ホスピタリスト、各種専門科外来、地域医療など、幅広い現場で臨床活動している。

米国の保険制度では、プライマリケアプロバイダーがすべての医療健康相談の窓口となるため、プライマリケアでカバーする医療健康問題領域は内科、皮膚科、婦人科、外科、耳鼻咽喉科、内分泌科、精神科など多岐にわたる。またファミリーナースプラクティショナー（以下FNP）は、小児から老年、老若男女と幅広い患者層を診療対象とする。

日系アメリカ人や日本からの移住者も多く在住するホノルル地域のプライマリケアクリニックである聖ルカクリニックは、米日の文化、言語が融合したユニークな【街の掛りつけ医院】である。毎年の健康診断や慢性疾患の管理など、定期的な疾病予防・疾病管理のために来院する患者と、突然の怪我や病気のために来院する観光客を含む患者の診療を医師とFNPが担当しており、学会当日は臨床例を挙げてプライマリケアのFNPに臨床の実際を紹介した。